

平成 27 年 12 月 18 日  
物 価 統 計 室

## 2015 年基準におけるモデル品目の計算方法（案）

「\*」は2015年基準改定における改廃品目

費目	品目 符号	品目名	内部ウエイト更新	モデルケース又は 採用価格等見直し	主な見直し内容	頁
食料	1924	コーヒー飲料B *			(新規追加)	1
	2163	ドーナツ(外食)			(新規追加)	1
住居	3000	民営家賃	○			2
	3016	公営家賃				2
	3017	都市再生機構・公社家賃				3
	3030	持家の帰属家賃	○			3
	3180	火災・地震保険料	○		地震保険料を新規合成	4
光熱・水道	3500	電気代	○	○		5
	3600	都市ガス代	○	○		6
	3612	プロパンガス				6
	3810	水道料	○	○		7
	4610	下水道料	○	○		7
家具・家事用品	4521	リサイクル料金	○			8
	4701	モップレンタル料			(新規追加)	8
保健医療	6090	健康保持用摂取品A			算式を見直し	9
	6094	健康保持用摂取品B *			(新規追加)	9
	6200	診療代				10
交通・通信	7528	料金(JR, 在来線)	○	○		11
	7530	料金(JR, 新幹線)	○	○		12
	7008	普通運賃(JR以外)	○			13
	7009	通学定期(JR以外)	○			13
	7010	通勤定期(JR以外)	○			13
	7050	一般路線バス代	○			14
	7057	高速バス代	○			14
	7060	タクシー代	○			15
	7070	航空運賃	○			16
	7363	高速自動車国道料金	○			17
	7364	都市高速道路料金	○			18
	7105	軽乗用車				19
	7106	小型乗用車A				19
	7110	小型乗用車B				19
	7113	普通乗用車A				19
	7115	普通乗用車B				19
	7344	レンタカー料金	○			20
	7350	ロードサービス料 *			(新規追加)	20
	7370	自動車保険料(自賠責)	○			21
	7390	自動車保険料(任意)	○			21
	7410	通信料(固定電話)				22
	7430	通信料(携帯電話)				23
	7433	運送料			(新規追加)	24
	7446	携帯電話機				25

## 2015年基準におけるモデル品目の計算方法（案）（続き）

「\*」は2015年基準改定における改廃品目

費目	品目 符号	品目名	内部ウエイ更新	モデルケース又は 採用価格等見直し	主な見直し内容	頁
教育	8010	中学校授業料(私立)	○			26
	8020	高等学校授業料(公立)	○			26
	8030	高等学校授業料(私立)	○			26
	8040	大学授業料(国立)	○			27
	8060	大学授業料(私立)	○			27
	8070	短期大学授業料(私立)	○			27
	8080	幼稚園保育料(公立)	○			26
	8090	幼稚園保育料(私立)	○			26
	8077	専修学校授業料(私立)	○			26
教養娯楽	9205	新聞代(全国紙)	○			27
	9226	月刊誌	○			28
	9230	週刊誌	○			28
	9300	宿泊料	○			29
	9305	外国パック旅行費	○			30
	9330	放送受信料(NHK)				31
	9367	放送受信料(NHK・ケーブル以外)				31
	9341	映画観覧料			(新規追加)	32
	9342	演劇観覧料			(新規追加)	32
	9374	文化施設入場料				33
	9372	テーマパーク入場料	○			33
	9397	インターネット接続料				34
	9403	ウェブコンテンツ利用料			コンテンツを拡充	35
	諸雑費	9722	バッグB			(新規追加)
9799		たばこ(国産品)				36
9798		たばこ(輸入品)				36
9928		傷害保険料	○			37
9921		保育所保育料			(新規追加)	37
9914		介護料				38
9920		振込手数料	○			39
9931		警備料 *			(新規追加)	39

(注) モデル品目のうち「パソコン(デスクトップ型)」、「パソコン(ノート型)」及び「カメラ」についてはPOS情報を活用してヘドニック指数を作成していることから、上記から除いている。

1924		コーヒー飲料B	
品目	銘柄	単位	
コーヒー飲料B	コンビニエンスストアにおけるコーヒー（アイスコーヒーを除く）、セルフサービス式、店頭で抽出するもの	1杯	
	コンビニエンス業者別		
<b>価格選定</b> (1) 代表的なコンビニエンス業者を複数選定する。 (2) 選定した業者すべてにおいて通年販売される商品のうち、販売数量の多い代表的な商品を選定する。			
<b>指数算出方法</b> ① コンビニエンス業者(a)別の販売数量(q)を用いて加重平均し、平均価格を算出する。 なお、販売数量は原則として毎年12月に更新する。 $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_a P_{(Y,M),a} q_{y,a}}{\sum_a q_{y,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">             Y : 当年              M : 当月              y : ウェイト参照年              a : コンビニエンス業者           </div> ② 前年12月を100とする連環指数を算出する。 $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12月),y}} \times 100$ ③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて、品目別価格指数を算出する。 $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<b>価格指数の適用</b> 全国一律			

2163		ドーナツ（外食）	
品目	銘柄	単位	
ドーナツ（外食）	飲食のできる店におけるドーナツ	1個	
	商品別		
<b>価格選定</b> (1) 主にドーナツを販売している外食店について、売上高の大きい代表的な企業を選定する。 (2) 選定した企業において通年販売される商品のうち、販売数量の多い代表的な商品を複数選定する。			
<b>指数算出方法</b> ① 商品(a)別の販売数量(q)を用いて加重平均し、平均価格を算出する。 なお、販売数量は原則として毎年12月に更新する。 $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_a P_{(Y,M),a} q_{y,a}}{\sum_a q_{y,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">             Y : 当年              M : 当月              y : ウェイト参照年              a : 商品           </div> ② 前年12月を100とする連環指数を算出する。 $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12月),y}} \times 100$ ③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて、品目別価格指数を算出する。 $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<b>価格指数の適用</b> 全国一律			

3000 民営家賃		
品目	銘柄	単位
民営家賃	民営借家の家賃	1か月
	延面積区分別，構造別	
<p>価格選定</p> <p>(1) 調査世帯（各調査市町村内に設けた家賃調査地区に居住する全ての民営借家世帯）の家賃を選定する。</p> <p>(2) 調査価格を，延面積及び構造により，以下の4区分に分類する。</p> <p>木造小住宅 … 延面積 30 m<sup>2</sup>未満 かつ 木造</p> <p>木造中住宅 … 延面積 30 m<sup>2</sup>以上 かつ 木造</p> <p>非木造小住宅 … 延面積 30 m<sup>2</sup>未満 かつ 非木造</p> <p>非木造中住宅 … 延面積 30 m<sup>2</sup>以上 かつ 非木造</p> <p>(3) 小売物価統計調査の家賃調査は，調査市町村別到家賃調査地区が3群に分けられ，毎月1群ずつ各群の民営借家世帯を調査するため，当月調査対象でない民営借家世帯は，直近の調査価格を用いる。</p> <p>(4) 当月空き家となった民営借家世帯は，次の入居があるまでの間は，直近の調査した家賃と延面積を当月分として代入する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 世帯(b)別の家賃及び延面積(A)を用いて，区分(a)別の平均価格（3.3 m<sup>2</sup>当たり）を算出する。</p> $P_{t,a} = \frac{\sum_b P_{t,a,b}}{\sum_b A_{t,a,b}} \times 3.3 = \frac{\sum_{b_1 \in \text{当月調査群}} P_{t,a,b_1} + \sum_{b_2 \in \text{前月調査群}} P_{t,a,b_2} + \sum_{b_3 \in \text{前々月調査群}} P_{t,a,b_3}}{\sum_{b_1 \in \text{当月調査群}} A_{t,a,b_1} + \sum_{b_2 \in \text{前月調査群}} A_{t,a,b_2} + \sum_{b_3 \in \text{前々月調査群}} A_{t,a,b_3}} \times 3.3$ <p>② 基準時価格で除して，区分別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時 a : 区分 b : 世帯</p> </div> <p>③ 区分別の構成比(w)を用いて加重平均し，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>		

3016 公営家賃		
品目	銘柄	単位
公営家賃	都道府県営住宅家賃	1か月
	市町村営住宅家賃	
<p>価格選定</p> <p>(1) 調査市町村内において，上記の各銘柄に該当する全ての家賃を選定する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 銘柄(a)別の家賃総額(p)及び総延面積(A)を用いて，平均価格（3.3 m<sup>2</sup>当たり）を算出する。</p> $P_t = \frac{\sum_a P_{t,a}}{\sum_a A_{t,a}} \times 3.3$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時 a : 銘柄（都道府県営，市町村営）</p> </div> <p>② 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>		

3017 都市再生機構・公社家賃		
品目	銘柄	単位
都市再生機構・ 公社家賃	都市再生機構住宅家賃	1か月
	都道府県住宅供給公社住宅家賃	
	市住宅供給公社，一般社団法人又は一般財団法人が管理している住宅家賃	
価格選定 (1) 調査市町村内において，上記銘柄に該当する全ての家賃を選定する。		
指数算出方法 ① 銘柄(a)別の家賃総額(p)及び総延面積(A)を用いて，平均価格(3.3㎡当たり)を算出する。 $P_t = \frac{\sum_a P_{t,a}}{\sum_a A_{t,a}} \times 3.3$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 銘柄(都市再生機構，都道府県公社，市公社等)         </div> ② 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
価格指数の適用 調査市町村別		

3030 持家の帰属家賃		
品目	銘柄	単位
持家の帰属家賃		1か月
価格選定 (1) 「3000 民営家賃」と同じ家賃データを用いる。		
指数算出方法 ① 「3000 民営家賃」において算出した区分別の平均価格を，対応する持家の帰属家賃における区分(a)にそれぞれ代入する。 ② 基準時価格で除して，区分別の指数を算出する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 区分         </div> $I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$ ③ 区分別の構成比(w)を用いて加重平均し，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
価格指数の適用 調査市町村別		

3180		火災・地震保険料	
品目	銘柄	単位	
火災・地震 保険料	火災保険，住宅物件，契約期間1か年，保険金額1千円に対する保険料率	1件	
	保険会社別，構造条件別		
	地震保険，住宅物件，契約期間1か年，保険金額100万円に対する保険料， 建築年割引		
	構造条件別		
<b>価格選定</b> (1) 保険会社は，火災保険では代表的な会社を複数、地震保険では代表的な会社を1社選定する。 (2) 構造条件は，火災保険には3区分（耐火構造，非耐火構造，マンション構造），地震保険には2区分（イ構造，ロ構造）あり，このうちすべてを選定する。			
<b>指数算出方法</b> ① 火災保険は構造条件(a)別，保険会社(b)別に，地震保険は構造条件(a)別に，前年12月を100とする連環指数を算出する。 <火災保険料> <地震保険料> $I'_{(Y,M),a,b,火災}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),a,b,火災}}{P_{(Y-1,12月),a,b,火災}} \times 100$ $I'_{(Y,M),a,地震}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),a,地震}}{P_{(Y-1,12月),a,地震}} \times 100$ ② 火災保険は構造条件別，保険会社別の保険料収入割合(w)，地震保険は構造条件別の保険料収入割合を用いて加重平均し，それぞれの連環指数を算出する。 <火災保険料> <地震保険料> $I'_{(Y,M),火災}^{(L)} = \frac{\sum_{a,b} I'_{(Y,M),a,b,火災}^{(L)} w_{0,a,b,火災}}{\sum_{a,b} w_{0,a,b,火災}}$ $I'_{(Y,M),地震}^{(L)} = \frac{\sum_a I'_{(Y,M),a,地震}^{(L)} w_{0,a,地震}}{\sum_a w_{0,a,地震}}$ ③ 火災保険・地震保険別の保険料収入割合(w')を用いて加重平均し，連環指数を算出する。なお，都道府県別の地震保険付帯率(B)を反映させる（原則として毎年12月に更新）。 $I'_{(Y,M)}^{(L)} = \frac{I'_{(Y,M),火災}^{(L)} w'_{0,火災} + I'_{(Y,M),地震}^{(L)} w'_{y,地震,県}}{w'_{0,火災} + w'_{y,地震,県}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 400px;"> <p>Y：当年，M：当月  y：ウエイト参照年  0：基準時  a：構造条件  b：保険会社  A：保険契約件数  B：地震保険付帯率</p> </div> ④ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，暫定指数を算出する。 $I'_{(Y,M)} = I'_{(Y-1,12月)} \times \frac{I'_{(Y,M)}^{(L)}}{100}$ ⑤ 生鮮食品を除く総合指数を用いて，物価変動を考慮した調整後指数を算出する。 $I_{(Y,M)} = I'_{(Y,M)} \times \frac{\text{比較時の生鮮食品を除く総合（全国）年平均指数*}}{\text{基準時の生鮮食品を除く総合（全国）年平均指数}}$ <p>*：作成時に入手可能な月（前々月）から過去1年間の平均値を採用</p>			
<b>価格変動調整の考え方</b> 消費者物価指数では，火災保険及び地震保険を物件の再購入を保証するサービスとしてとらえている。保険料率が同じでも再購入されるべき対象である物件の価格変動に伴って支払うべき保険料も変化するため，その変動分も消費者物価指数に反映されなければならない。その物件の価格変動分を加味するため，生鮮食品を除く総合指数（全国）を用いて火災・地震保険料の指数の実質化を行っている。			
<b>価格指数の適用</b> 調査市町村別			

3500		電気代
品目	銘柄	
電気代	従量電灯，アンペア制又は最低料金制，基本料金又は最低料金・電力量料金・燃料費調整単価・再生可能エネルギー発電促進賦課金単価・口座振替割引	
	使用電力量パターン別	
単位 1か月		
価格選定		
<p>(1) 調査市町村別に電気を供給している代表的な電力会社を1社選定する。</p> <p>(2) 選定した電力会社（全部で10社）が採用している料金体系を用いて算定する。</p> <p style="padding-left: 40px;">北海道，東北，東京，北陸，中部，九州電力の6社…………… アンペア制</p> <p style="padding-left: 40px;">関西，中国，四国，沖縄電力の4社…………… 最低料金制</p> <p>(3) 1か月当たりの使用電力量について5パターン設定する（カッコ内は，アンペア制における契約アンペア数を表す）。</p> <p style="padding-left: 40px;">使用電力量パターン：160 kWh (20A)，250 kWh (30A)，330 kWh (40A)，440 kWh (50A)，720 kWh (60A)</p>		
指数算出方法		
<p>① 使用電力量パターン(a)別の価格を算出する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 使用電力量パターン </div> <p>ア アンペア制の場合</p> $p_{t,a} = \text{基本料金} + (1 \text{ kWh 当りの料金} + \text{燃料費調整単価}) \times 1 \text{ か月の使用量} \\ + \text{再生可能エネルギー発電促進賦課金単価} \times 1 \text{ か月の使用量} \\ - \text{口座振替割引}$ <p>イ 最低料金制の場合</p> $p_{t,a} = \text{最低料金} + (1 \text{ kWh 当りの超過料金単価} \times (1 \text{ か月の使用量} - \text{最低料金量})) \\ + \text{燃料費調整最低料金} + (\text{燃料費調整単価} \times (1 \text{ か月の使用量} - \text{最低料金量})) \\ + \text{再生可能エネルギー発電促進賦課金最低料金} \\ + (\text{再生可能エネルギー発電促進賦課金単価} \times (1 \text{ か月の使用量} - \text{最低料金量})) \\ - \text{口座振替割引}$		
<p>② 使用電力量パターン別の世帯割合(<math>q</math>)を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。</p> $P_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a q_{0,a}}$		
<p>③ 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
価格指数の適用		
調査市町村別		

3600		都市ガス代	
品目	銘柄	単位	
都市ガス代	一般家庭用，基本料金・従量料金・燃料費調整単価	1か月	
	使用熱量パターン別		
<b>価格選定</b> (1) 調査市町村別に都市ガスを供給している代表的なガス会社を1社選定する。 (2) 1か月当たりの使用熱量について5パターン設定する。 使用熱量パターン：400 MJ，900 MJ，1400 MJ，2100 MJ，3900MJ			
<b>指数算出方法</b> ① 調査市町村別に，1か月当たり使用熱量パターン(a)別の価格を算出する。 $p_{t,a} = p_{t,a}^{\text{基本}} + (p_{t,a}^{\text{従量}} + p_t^{\text{調整単価}}) \times A_a$ ② 使用熱量パターン別の世帯割合(q)を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a q_{0,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 使用熱量パターン  <math>A</math> : パターン別使用熱量           </div> ③ 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$			
価格指数の適用 調査市町村別			

3612		プロパンガス	
品目	銘柄	単位	
プロパンガス	一般家庭用，二部料金制，基本料金・従量料金	1か月	
	事業者別		
<b>価格選定</b> (1) 調査市町村別に代表的な事業者を所定数選定する。 (2) 1か月当たりの使用量は10 m <sup>3</sup> とする。			
<b>指数算出方法</b> ① 事業者(a)別に，1か月当たりの価格を算出する。 $p_{t,a} = p_{t,a}^{\text{基本}} + p_{t,a}^{\text{従量}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 事業者           </div> ② 事業者数(n)で単純平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{\sum_a p_{t,a}}{n}$ ③ 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$			
価格指数の適用 調査市町村別			

3810 水道料		
品目	銘柄	単位
水道料	一般家庭用，計量制，専用栓，基本料金・超過料金・量水器使用料金	1か月
	使用水量パターン別	
<b>価格選定</b> (1) 1か月当たりの使用水量について3パターン設定する。 使用水量パターン：20 m <sup>3</sup> ，30 m <sup>3</sup> ，50 m <sup>3</sup>		
<b>指数算出方法</b> ① 調査市町村別に，1か月当たり使用水量パターン(a)別の価格を算出する。 $p_{t,a} = p_{t,a}^{\text{基本}} + p_{t,a}^{\text{超過}} \times A_a$ ② 使用水量パターン別の世帯割合(q)を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a q_{0,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : 使用水量パターン              A : パターン別使用水量           </div> ③ 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
<b>価格指数の適用</b> 調査市町村別		

4610 下水道料		
品目	銘柄	単位
下水道料	一般家庭用，計量制，水道汚水，基本料金・超過料金	1か月
	使用排出量パターン別	
<b>価格選定</b> (1) 従量制の場合，1か月当たりの使用排出量について3パターン設定する。 使用排出量パターン：20 m <sup>3</sup> ，30 m <sup>3</sup> ，50 m <sup>3</sup> (2) 人頭制の場合，世帯人員数を調査市町村における平均世帯人員とする。		
<b>指数算出方法</b> ① 従量制の場合 ア 調査市町村別に，1か月当たり使用排出量パターン(a)別の価格を算出する。 $p_{t,a} = p_{t,a}^{\text{基本}} + p_{t,a}^{\text{超過}} \times A_a$ イ 使用排出量パターン別の世帯割合(q)を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a q_{0,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : 使用水量パターン              A : パターン別使用水量           </div> ② 人頭制の場合 ア 平均世帯人員(N)当たりの料金に換算し，調査市町村別の平均価格を算出する。 $P_t = (p_t^{\text{人}} \times N) + p_t^{\text{基本}}$ ③ 基準時価格で除して，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
<b>価格指数の適用</b> 調査市町村別		

4521 リサイクル料金		
品目	銘柄	単位
リサイクル料金	家電リサイクル法に基づく家電製品のリサイクル料金	1回
	製品別	
<b>価格選定</b> (1) 「特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）」（平成 13 年 4 月 1 日施行）で定められた廃家電 4 製品（冷蔵庫・冷凍庫，洗濯機・衣類乾燥機，エアコン，テレビ）を選定する。 (2) 製品ごとに代表的なリサイクル業者を選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 製品(a)別の引取台数(q)を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : 製品           </div>		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

4701 モップレンタル料		
品目	銘柄	単位
モップレンタル料	フロアタイプ，4週間	1個
	貸出サービス別	
<b>価格選定</b> (1) 代表的な家庭向け清掃・衛生用品貸出サービス業者を選定する。 (2) 選定した業者において販売される貸出サービスのうち，販売数量の多い代表的なサービスを複数選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 貸出サービス(a)別の販売数量(q)を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : 貸出サービス           </div>		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

6090～6094		健康保持用摂取品	
品 目	銘 柄	単 位	
6090 健康保持用摂取品 A	栄養機能食品，マルチビタミン，粒状，通信販売によるもの	1 袋	
	販売会社別		
6094 健康保持用摂取品 B	青汁，粉末，通信販売によるもの		
	販売会社別		
<p>価格選定</p> <p>(1) インターネットを用いて通信販売を行っている代表的な販売会社を複数選定する。</p> <p>(2) 販売会社ごとに代表的な商品を選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 販売会社(a)別に前年12月を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),a}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),a}}{P_{(Y-1,12月),a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <p>Y : 当年 M : 当月 a : 販売会社</p> </div> <p>② 販売会社別の商品売上高割合(s)を用いて加重幾何平均し，連環指数を算出する。 なお，商品売上高割合は原則として毎年12月に更新する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \prod_{a=1}^n \left( I_{(Y,M),a}^{(L)} \right)^{s_a} \quad \left( \sum_{a=1}^n s_a = 1 \right)$ <p>③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			

6200		診療代
品目	銘柄	
診療代	選定した診療行為	
	年齢区分別, 診療種類区分別, 病院・診療所の区分別	
単位		
1回		
<p>価格選定</p> <p>(1) 年齢区分(小児(義務教育就学前), 一般(義務教育就学後~70歳未満), 高齢者(70~74歳), 後期高齢者(75歳以上))別, 診療種類区分(入院, 入院外, 歯科)別, 病院・診療所の区分別に, 代表的な診療行為を選定する。</p> <p>(2) 受診者負担分価格を選定する。なお, 70歳代前半の被保険者等に係る一部負担金等の軽減特例措置の見直しによる受診者負担分価格の変動は, 毎年4月に反映させる(2018年4月まで)。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 年齢区分(a)が高齢者(70~74歳)の場合(2018年4月まで)</p> <p>ア 年齢(d)別の人口(q)を用いて加重平均する。人口は毎年4月に更新する。</p> $P'_{(Y,M),y,a,b,c} = \frac{\sum_d P_{(Y,M),a,b,c,d} q_{y,a,b,c,d}}{\sum_d q_{y,a,b,c,d}}$ <p>イ 3月の平均価格に, ①で求めた価格の比を乗じて, 4月以降の年齢区分(a)別, 診療種類区分(b)別, 病院・診療所の区分(c)別の平均価格を算出する。</p> $P_{(Y,M),a,b,c} = P_{(Y,3月),a,b,c} \times \frac{P'_{(Y,4月),y,a,b,c}}{P'_{(Y,3月),y,a,b,c}}$ <p>② 診療種類区分別, 病院・診療所の区分別の診療行為実施回数(q)を用いて加重平均し, 年齢区分別の平均価格を算出する。なお, 診療行為実施回数は, 制度改正時に入手できる最新のものをを用いる。</p> $P_{(Y,M),y,a} = \frac{\sum_{b,c} P_{(Y,M),a,b,c} q_{y,a,b,c}}{\sum_{b,c} q_{y,a,b,c}}$ <p>③ 前月(制度改正前)を100とする年齢区分別の連環指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),a}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y,a}}{P_{(Y,M-1),y,a}} \times 100$ <p>④ 年齢区分別の診療報酬割合(w)を用いて加重平均し, 診療行為分の連環指数を算出する。なお, 診療報酬割合は制度改正時に入手できる最新のものをを用いる。</p> $I_{(Y,M),診}^{(L)} = \frac{\sum_a I_{(Y,M),a}^{(L)} w_{y,a}}{\sum_a w_{y,a}}$ <p>⑤ 薬価基準改定率(R)を用いて, 薬価分の指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),薬} = \left(1 + \frac{R(\%)}{100}\right) \times 100$ <p>⑥ 診療行為分及び薬価分の診療報酬割合(w)を用いて加重平均し, 連環指数を算出する。なお, 診療報酬割合は, 制度改正時に入手できる最新のものをを用いる。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{I_{(Y,M),診}^{(L)} w_{y,診} + I_{(Y,M),薬} w_{y,薬}}{w_{y,診} + w_{y,薬}}$ <p>⑦ 前月(制度改正前)の指数に当年当月の連環指数を乗じて, 品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y,M-1} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>		

Y : 当年  
M : 当月  
y : ウェイト参照年  
a : 年齢区分  
b : 診療種類区分  
c : 病院・診療所の区分  
d : 年齢

7528		料金（JR，在来線）	
品目	銘柄	単位	
料金 (JR，在来線)	旅客鉄道（JR），在来線，大人，指定席特別急行料金（～200km）	1回	
	鉄道会社別，料金区分別，シーズン別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 鉄道会社（JR各社）別の特急料金を選定する。</p> <p>(2) 料金区分については，鉄道会社別に以下の区分を選定する。  JR北海道，JR東海，JR四国…………… A特急料金  JR九州…………… B特急料金  JR東日本，JR西日本…………… A，B両方の特急料金</p> <p>(3) シーズン（閑散期，通常期，繁忙期）別の料金を選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① シーズン(c)別の日数(A)を用いて加重平均し，料金区分(b)別の平均価格を算出する。  なお，シーズン別日数は常に基準年の日数を利用する。</p> $P_{t,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c} A_{(0,M),a,b,c}}{\sum_c A_{(0,M),a,b,c}}$ <p>② 料金区分数(n)で単純平均し，鉄道会社(a)別の平均価格を算出する。</p> $P_{t,a} = \frac{\sum_b P_{t,a,b}}{n}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>t : 比較時 (Y:年, M:月)  0 : 基準時  a : 鉄道会社  b : 料金区分  c : シーズン</p> </div> <p>③ 基準時価格で除して，鉄道会社別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$ <p>④ 鉄道会社別の運輸収入割合(w)を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律。ただし，沖縄県には適用しない。</p>			

7530		料金（JR，新幹線）	
品目	銘柄		単位
料金 (JR，新幹線)	旅客鉄道（JR），大人，指定席特別急行料金，新幹線		1回
	鉄道会社別，新幹線路線別，シーズン別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 鉄道会社（JR各社）が運営する新幹線において，以下の路線を選定する。  JR東日本……………東北，秋田，山形，上越，北陸新幹線  JR東海……………東海道新幹線  JR西日本……………山陽新幹線  JR九州……………九州新幹線</p> <p>(2) 路線別に代表的な区間を選定する。</p> <p>(3) 選定した区間に複数種類の列車が通っている場合は，代表的な列車を選定する。</p> <p>(4) シーズン（閑散期，通常期，繁忙期）別の料金を選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① シーズン(c)別の日数(A)を用いて加重平均し，新幹線路線(b)別の平均価格を算出する。  なお，シーズン別日数は常に基準年の日数を利用する。</p> $P_{t,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c} A_{(0,M),a,b,c}}{\sum_c A_{(0,M),a,b,c}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 400px;"> <p>t : 比較時 (Y: 年, M: 月)  0 : 基準時  a : 鉄道会社  b : 新幹線路線  c : シーズン</p> </div> <p>② 基準時価格で除して，新幹線路線別の指数を算出する。</p> $I_{t,a,b} = \frac{P_{t,a,b}}{P_{0,a,b}} \times 100$ <p>③ 鉄道会社(a)別，新幹線路線別の1日当たりの運行本数割合(w)を用いて加重平均し，鉄道会社別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{\sum_b I_{t,a,b} w_{0,a,b}}{\sum_b w_{0,a,b}}$ <p>④ 鉄道会社別の運輸収入割合(w)を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律。ただし，北海道及び沖縄県には適用しない。</p>			

7008～7010 普通運賃（JR以外）、通学定期（JR以外）、通勤定期（JR以外）		
品目	銘柄	単位
7008 普通運賃（JR以外）	旅客鉄道（JR以外）、大人、片道、普通旅客運賃	1回
	鉄道会社別、区間別	
7009 通学定期（JR以外）	旅客鉄道（JR以外）、通学定期旅客運賃（大学生用）	6か月
	鉄道会社別、区間別	
7010 通勤定期（JR以外）	旅客鉄道（JR以外）、大人、片道、通勤定期旅客運賃	
	鉄道会社別、区間別	
<b>価格選定</b> (1) 都道府県別に代表的な鉄道会社を1つ又は複数選定する。 (2) 選定した鉄道会社に複数の路線がある場合は、代表的な路線を選定する。 (3) 2区間（初乗り、指定距離）における運賃を選定する。指定距離は、JR以外における1人あたりの平均的な輸送キロを採用する。 (4) 普通運賃で、ICカード運賃と現金運賃とで運賃が異なる場合は、安い方の運賃を採用する。		
<b>指数算出方法</b> ① 基準時価格で除して、区間(b)別の指数を算出する。 <div style="float: right; border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 鉄道会社  <math>b</math> : 区間 (初乗り, 指定距離)           </div> $I_{t,a,b} = \frac{P_{t,a,b}}{P_{0,a,b}} \times 100$		
② 初乗りと指定距離とで単純平均し、鉄道会社(a)別の指数を算出する。 $I_{t,a} = \frac{I_{t,a}^{\text{初}} + I_{t,a}^{\text{指}}}{2}$		
③ 複数の鉄道会社を選定した場合は、運輸収入割合(w)を用いて加重平均し、都道府県別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
<b>価格指数の適用</b> 都道府県内一律。ただし、徳島県、大分県及び宮崎県は指数なし。		

7050		一般路線バス代
品目	銘柄	単位
一般路線バス代	一般乗合旅客自動車，一般バス，大人 バス会社別，区間別	1回
<p>価格選定</p> <p>(1) 調査市町村内を運行する代表的なバス会社を所定数選定する。            東京都区部…………… 3社            仙台市，横浜市，川崎市，京都市，大阪市，神戸市，広島市，北九州市…………… 2社            その他の調査市…………… 1社</p> <p>(2) 選定したバス会社に複数の路線がある場合は，代表的な路線を選定する。</p> <p>(3) 2区間（初乗り，指定距離）における運賃を選定する。指定距離は，乗合バスにおける1人あたりの平均的な輸送キロを採用する。</p> <p>(4) ICカード運賃と現金運賃とで運賃が異なる場合は，安い方の運賃を採用する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 基準時価格で除して，区間(b)別の指数を算出する。</p> $I_{t,a,b} = \frac{P_{t,a,b}}{P_{0,a,b}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時            a : バス会社            b : 区間（初乗り，指定距離）</p> </div> <p>② 初乗りと指定距離とで単純平均し，バス会社(a)別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{I_{t,a}^{\text{初}} + I_{t,a}^{\text{指}}}{2}$ <p>③ 複数のバス会社を選定した場合は，乗車人員数割合(w)を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>		

7057		高速バス代
品目	銘柄	単位
高速バス代	一般乗合旅客自動車，高速バス，始発から終着（120km～170km），高速道路利用，昼行便，大人 路線別	1回
<p>価格選定</p> <p>(1) 都道府県ごとに1日当たりの便数が多い代表的な高速バス路線を所定数選定する。            東京都…………… 3路線            宮城県，神奈川県，愛知県，京都府，大阪府，兵庫県，広島県…………… 2路線            その他の道県…………… 1路線</p> <p>(2) ICカード運賃と現金運賃とで運賃が異なる場合は，安い方の運賃を採用する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 路線別の1日当たりの便数(q)を用いて，都道府県別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時            a : 路線</p> </div>		
<p>価格指数の適用</p> <p>都道府県内一律</p>		

7060		タクシー代	
品目	銘柄	単位	
タクシー代	距離制運賃, 距離制運賃に適用される距離	1回	
	運賃種類別, 乗車時間帯別, タクシー会社別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 運賃の種類については, 初乗運賃及び加算運賃並びにそれぞれに適用する距離の初乗距離及び加算距離を選定する。</p> <p>(2) 車種については, 小型車, 中型車 (又は普通車) のいずれかを選定する。</p> <p>(3) 乗車時間帯 (通常, 深夜早朝割増) 別の運賃を選定する。</p> <p>(4) 調査市町村内に所在する法人タクシー会社のうち, 調査市町村ごとに保有台数の多い代表的な会社を所定数選定する。</p> <p>東京都区部…………… 10社  大阪市…………… 7社  県庁所在市である政令指定都市及び那覇市…………… 5社  その他の県庁所在市…………… 3社  その他の市町村…………… 1社</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 距離制運賃 (<math>p</math>) をそれぞれ適用する距離 (<math>l</math>) で除して, 1メートル当たりの運賃 (<math>p</math>) を算出する。</p> $p_{t,a,b,c} = \frac{p'_{t,a,b,c}}{l_{t,a,b,c}}$ <p>② タクシー会社 (<math>c</math>) 別の保有台数 (<math>q</math>) を用いて加重平均し, 運賃種類 (<math>b</math>) 別, 乗車時間帯 (<math>c</math>) 別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a,b} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c} q_{0,c}}{\sum_c q_{0,c}}$ <p>③ 運賃種類別, 乗車時間帯別の利用割合 (<math>q</math>) を用いて, 調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_{a,b} p_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_{a,b} p_{0,a,b} q_{0,a,b}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p><math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 乗車時間帯 (通常, 深夜)  <math>b</math> : 運賃種類 (初乗, 加算)  <math>c</math> : タクシー会社</p> </div>			
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>			

7070		航空運賃	
品目	銘柄	単位	
航空運賃	国内線，大人，片道，旅客運賃	1回	
	路線別，航空会社別，運賃の種類別，日別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 旅客数と普通運賃から選定した代表的な上位 10 路線を選定する。</p> <p>(2) 各路線から航空会社を複数選定する。</p> <p>(3) 航空会社ごとに 1 便又は 2 便ずつ選定する。</p> <p>(4) 選定した便について普通運賃，往復割引運賃及び最も安い割引運賃の 3 種類を採用する。なお，割引運賃については発売期間限定のものは含めるが，シルバー割引など購入対象者が限定されるものは除外する。</p> <p>(5) 1 か月分の日別価格を選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 路線(a)別，航空会社別(d)の旅客人数(q)を用いて加重平均し，日(c)別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a,b,c} = \frac{\sum_d p_{t,a,b,c,d} q_{0,a,d}}{\sum_d q_{0,a,d}}$ <p>② 当月日数(n)で単純平均し，運賃の種類(b)別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a,b} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c}}{n}$ <p>③ 運賃の種類別の利用割合(q)を用いて加重平均し，路線(a)別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a} = \frac{\sum_b p_{t,a,b} q_{0,b}}{\sum_b q_{0,b}}$ <p>④ 路線別の旅客人数(q)を用いて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時  a : 路線  b : 運賃の種類  c : 日  d : 航空会社</p> </div>			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			

7363 高速自動車国道料金		単位
品目	銘柄	
高速自動車 国道料金	普通車, 対距離制区間, 100km 以内の利用, ETC を利用した場合の料金	1 回
	料金区分 (固定額部分・可変額部分) 別, 地域区分 (地方部・大都市近郊) 別	
	普通車, 均一制区間, 100km 以内の利用, ETC を利用した場合の料金	
	区間別	
<p>価格選定</p> <p>(1) 対距離制区間及び均一制区間別に価格を選定する。</p> <p>(2) 対距離制区間においては, 利用 1 回に対して課される固定額部分 (ターミナルチャージ) 及び利用距離に対して課される可変額部分 (1 km 当たりの料金) を選定する。</p> <p>(3) 均一制区間においては, 区間ごとに設定された, 利用 1 回に対して課される均一料金を選定する。</p> <p>(4) 価格は, 地方部・大都市近郊区間別の ETC 平均割引率を反映させた, ETC 割引後の価格を用いる。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 対距離制区間の場合</p> <p>ア 基準時価格で除して, 料金区分 (a) 別, 地域区分 (b) 別の指数を算出する。</p> $I_{t,a,b} = \frac{P_{t,a,b}}{P_{0,a,b}} \times 100$ <p>イ 料金区分別, 地域区分別の料金収入割合 (w) を用いて加重平均し, 対距離制区間の指数を算出する。</p> $I_{t,対} = \frac{\sum_{a,b} I_{t,a,b} w_{0,a,b}}{\sum_{a,b} w_{0,a,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>t : 比較時, 0 : 基準時  a : 料金区分  b : 地域区分  c : 区間</p> </div> <p>② 均一制区間の場合</p> <p>ア 基準時価格で除して, 区間 (c) 別の指数を算出する。</p> $I_{t,c} = \frac{P_{t,c}}{P_{0,c}} \times 100$ <p>イ 区間別の料金収入割合 (w) を用いて加重平均し, 均一制区間の指数を算出する。</p> $I_{t,均} = \frac{\sum_c I_{t,c} w_{0,c}}{\sum_c w_{0,c}}$ <p>③ 対距離制区間及び均一制区間別の料金収入割合 (w) を用いて加重平均し, 品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{I_{t,対} w_{0,対} + I_{t,均} w_{0,均}}{w_{0,対} + w_{0,均}}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>		

7364 都市高速道路料金		単位
品目	銘柄	
都市高速道路 料金	普通車，E T Cを利用した場合の料金	1回
	道路会社別，料金区分別	
<p>価格選定</p> <p>(1) 首都高速，阪神高速，名古屋高速，広島高速，福岡・北九州高速の5社を選定する。</p> <p>(2) 道路会社ごとに通行台数の多い代表的な料金区分（路線，普通区間，特定区間など）を複数選定する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① E T C割引後の料金区分(<math>b</math>)別価格について，各区分の通行台数(<math>q</math>)を用いて加重平均し，道路会社(<math>a</math>)別の平均価格を算出する。</p> $P_{t,a} = \frac{\sum_b P_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_b q_{0,a,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <math>t</math> : 比較時，<math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : 道路会社  <math>b</math> : 料金区分 </div> <p>② 基準時価格で除して，道路会社別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$ <p>③ 道路会社別の料金収入割合(<math>w</math>)を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律。ただし，北海道及び沖縄県には適用しない。</p>		

7105～7115 自動車		
品目	銘柄	単位
7105 軽乗用車	道路運送車両法で規定される軽自動車	車種別 1台
7106 小型乗用車A	道路運送車両法で規定される小型自動車，国内メーカーが販売するもの	
7110 小型乗用車B	道路運送車両法で規定される小型自動車，海外メーカーが販売するもの	
7113 普通乗用車A	道路運送車両法で規定される普通自動車，国内メーカーが販売するもの	
7115 普通乗用車B	道路運送車両法で規定される普通自動車，海外メーカーが販売するもの	
<p>価格選定</p> <p>(1) 各品目について，登録台数が上位の車種を選定する。なお，自動車はモデルチェンジなどにより，各車種のシェアが大きく変化するため，直近1年間の登録台数を基に毎年12月に見直しを行う。</p> <p>(2) 東京地区の車両本体価格，自動車取得税，リサイクル料金の合計金額（消費税込み）を採用する。</p> <p>(3) 車種のモデルチェンジ，追加，廃止により，必要であれば品質調整を行う。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 車種(a)別の登録数量(q)を用いて加重平均し，平均価格を算出する。          なお，登録台数は毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_a P_{(Y,M),a} q_{y,a}}{\sum_a q_{y,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>Y : 当年  M : 当月  y : ウェイト参照年  a : 車種</p> </div> <p>② 前年12月を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12月),y}} \times 100$ <p>③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>		

7344 レンタカー料金		単位
品目	銘柄	
レンタカー料金	乗用車, 1000 ccクラスが含まれるグレード, 出発時の店舗に返却, 24時間借りた場合の車種時間料金(免責補償料を除く。)	1回
	地域区分別, レンタカー会社別, シーズン別	
<b>価格選定</b> (1) 地域区分別(北海道, 沖縄県, 左記以外)に価格を選定する。 (2) 代表的なレンタカー会社を複数選定する。 (3) シーズン(通常期, 繁忙期)別に価格を選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① シーズン(c)別の日数(A)を用いて加重平均し, レンタカー会社(b)別の平均価格を算出する。 なお, シーズン別日数は常に基準年の日数を利用する。 $P_{t,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c} A_{(0,M),a,b,c}}{\sum_c A_{(0,M),a,b,c}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <math>t</math> : 比較時 (Y:年, M:月)  <math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : 地域区分  <math>b</math> : レンタカー会社  <math>c</math> : シーズン           </div> ② レンタカー会社別の保有車両数(q)を用いて加重平均し, 地域区分(a)別の平均価格を算出する。 $P_{t,a} = \frac{\sum_b P_{t,a,b} q_{0,b}}{\sum_b q_{0,b}}$ ③ 地域区分別の個人向け年間契約台数(q)を用いて, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}}$		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

7350 ロードサービス料		単位
品目	銘柄	
ロードサービス料	一般道路, 昼間(8時~20時), JAF非会員価格	1回
	ロードサービス別	
<b>価格選定</b> (1) 実施件数の多い代表的なロードサービスを複数選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① ロードサービス(a)別の実施件数(q)を用いて, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <math>t</math> : 比較時, <math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : ロードサービス           </div>		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

7370 自動車保険料（自賠償）		
品目	銘柄	単位
自動車保険料 （自賠償）	自動車損害賠償責任保険，保険期間 24 か月	1 件
	車種別	
価格選定 (1) 契約件数の多い代表的な車種を複数選定する。 (2) 地域別（沖縄県以外，沖縄本島，沖縄県離島）に価格指数を作成する。		
指数算出方法 ① 車種(a)別の契約件数(q)を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : 車種           </div>		
価格指数の適用 沖縄県以外については，沖縄県以外の品目別価格指数を一律に適用する。 沖縄県については，該当する地域（沖縄県本島，沖縄県離島）の品目別価格指数を適用する。		

7390 自動車保険料（任意）		
品目	銘柄	単位
自動車保険料 （任意）	自家用乗用車自動車保険，リスク細分型保険料，保険期間 1 か年（一括払い）	1 件
	保険会社別，モデルケース別	
価格選定 (1) 保険料収入の多い代表的な保険会社を複数選定する。 (2) 契約条件（年齢，等級，車種，対人賠償保険金額，対物賠償保険金額，人身傷害補償保険金額，車両保険金額など）を指定したモデルケースを複数選定する。		
指数算出方法 ① 基準時価格で除して，保険会社(b)別の指数を算出する。 $I_{t,a,b} = \frac{P_{t,a,b}}{P_{0,a,b}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">             t : 比較時，0 : 基準時              a : モデルケース              b : 保険会社           </div> ② 保険会社別の保険料収入割合(w)を用いて加重平均し，モデルケース(a)別の指数を算出する。 $I_{t,a} = \frac{\sum_b I_{t,a,b} w_{0,b}}{\sum_b w_{0,b}}$ ③ モデルケース別の契約件数割合(w)を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
価格指数の適用 全国一律		

7410		通信料（固定電話）	
品目	銘柄	単位	
通信料 (固定電話)	固定電話，加入電話，住宅用	1 か月	
	I P 電話，住宅用		
<p>価格選定</p> <p>(1) 固定電話，I P 電話ごとに，利用頻度の高い代表的な通信事業者を選定する。</p> <p>(1) 固定電話による料金は，通話料金，回線使用料，配線使用料，ユニバーサルサービス料を選定する。 なお，回線使用料については，代表的な回線種類区分を複数選定する。</p> <p>(2) I P 電話による料金は，通話料金，基本料金，機器利用料，ユニバーサルサービス料を選定する。 なお，基本料金については，代表的な機器利用料区分を複数選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 基準年 1 か月当たり通信時間 (<math>T</math>) と単位時間 (<math>\tau</math>) 当たり通話料金 (<math>A</math>) から，通信事業者 (<math>a</math>) 別の通話料金 (1 か月当たり) を算出し，これを合計して総通話料金 (<math>p'</math>) を算出する。</p> $p'_{(Y,M),\text{通話}} = \sum_a \frac{T_{0,a} \times A_{(Y,M),a}}{\tau_{(Y,M),a}}$ <p>② 家計調査から推計した基準時価格に総通話料金の比を乗じて，通話料金の平均価格を算出する。</p> $p_{(Y,M),\text{通話}} = \frac{p'_{(Y,M),\text{通話}}}{p'_{(0,1\text{月}),\text{通話}}} \times p_{0,\text{通話}}$ <p>③ ②で求めた通話料金に，回線使用料 (回線種類区分 (<math>b</math>) 別価格を単純平均)，配線使用料，ユニバーサルサービス料を合計して固定電話料金を算出する。</p> $P_{(Y,M),\text{固定}} = p_{(Y,M),\text{通話}} + \frac{\sum_b p_{(Y,M),b}}{n} + p_{(Y,M),\text{配線}} + p_{(Y,M),\text{ユニバーサル}}$ <p>④ ②で求めた通話料金に，機器利用料 (機器種類区分 (<math>c</math>) 別価格を契約数 (<math>q</math>) で加重平均)，基本料金，ユニバーサルサービス料を合計して I P 電話料金を算出する。 なお，契約数は原則として毎年 12 月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y,\text{IP}} = p_{(Y,M),\text{通話}} + \frac{\sum_c p_{(Y,M),c} q_{y,c}}{\sum_c q_{y,c}} + p_{(Y,M),\text{基本}} + p_{(Y,M),\text{ユニバーサル}}$ <p>⑤ 固定電話・I P 電話別の契約数 (<math>q</math>) を用いて加重平均し，調査市町村別の平均価格を算出する。 なお，契約数は原則として毎年 12 月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y} = \frac{P_{(Y,M),\text{固定}} q_{y,\text{固定}} + P_{(Y,M),y,\text{IP}} q_{y,\text{IP}}}{q_{y,\text{固定}} + q_{y,\text{IP}}}$ <p>⑥ 前年 12 月を 100 とする連環指数を算出する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12\text{月}),y}} \times 100$ <p>⑦ 前年 12 月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12\text{月}} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>			

$Y$  : 当年  
 $M$  : 当月  
 $y$  : ウェイト参照年  
 $0$  : 基準時  
 $a$  : 通信事業者  
 $b$  : 回線種類区分  
 $c$  : 機器種類区分

7430		通信料（携帯電話）	
品目	銘柄		単位
通信料 (携帯電話)	国内通話・パケット通信サービスに係る料金（別途情報料などは除く。）		1か月
	従来型携帯電話機・スマートフォン別，通信事業者別，形態別，利用パターン別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 従来型携帯電話機とスマートフォンの別に，各種統計データなどから推計した1回線1か月当たりの通話時間とパケット通信量を，各々低利用・中利用・高利用に分けた各パターンにおける最安価格を選定する。</p> <p>(2) 最安価格は，加入に制約条件のない割引サービスの中から選定する。</p> <p>(3) 複数年契約を前提とする基本使用料割引サービスなどについては，加入に制約条件があるものの，例外的に最安価格の選定に用いる。</p> <p>(4) 契約数の多い代表的な通信事業者を複数選定する。</p> <p>(5) スマートフォンは，通信規格，OS等により代表的な形態を複数選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 形態(d)別の契約数(q)を用いて加重平均し，通信事業者(c)別の平均価格を算出する（スマートフォンのみ）。なお，契約数は原則として毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y,a,b,c} = \frac{\sum_d P_{(Y,M),a,b,c,d} q_{y,c,d}}{\sum_d q_{y,c,d}}$ <p>② 通信事業者別の契約数(q)を用いて加重平均し，利用パターン(b)別の平均価格を算出する。なお，契約数は原則として毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c} q_{y,c}}{\sum_c q_{y,c}}$ <p>③ 当年当月の価格を前年12月の価格で除して算出した利用パターン別の価格比について，パターン数で単純平均し，前年12月を100とする従来型携帯電話機・スマートフォン別の連環指数を算出する。</p> <p>(従来型携帯電話機(F)) (スマートフォン(S))</p> $I_{(Y,M),F}^{(L)} = \frac{\sum_{b=1}^9 \frac{P_{(Y,M),y,F,b}}{P_{(Y-1,12月),y,F,b}}}{9} \times 100 \quad I_{(Y,M),S}^{(L)} = \frac{\sum_{b=1}^9 \frac{P_{(Y,M),y,S,b}}{P_{(Y-1,12月),y,S,b}}}{9} \times 100$ <p>④ 従来型携帯電話機・スマートフォン別の契約数割合(w)を用いて加重平均し，前年12月を100とする連環指数を算出する。なお，契約数は原則として毎年12月に更新する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{I_{(Y,M),F}^{(L)} w_{Y-1,F} + I_{(Y,M),S}^{(L)} w_{Y-1,S}}{w_{Y-1,F} + w_{Y-1,S}}$ <p>⑤ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			

Y : 当年  
M : 当月  
y : ウェイト参照年  
a : 従来型携帯電話機(F)  
・スマートフォン(S)  
b : 利用パターン  
c : 通信事業者  
d : 形態

7433		運送料	
品 目	銘 柄		単 位
運送料	宅配便運賃, 縦・横・高さの合計 100cm, 同一都道府県内配送運賃		1 個
	宅配便業者別		
価格選定 (1) 取扱個数の多い代表的な宅配便業者を複数選定する。			
指数算出方法 ① 宅配便業者 ( $a$ ) 別の取扱個数 ( $q$ ) を用いて, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <math>t</math> : 比較時, <math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : 宅配業者         </div>			
価格指数の適用 全国一律			

7446		携帯電話機	
品目	銘柄	単位	
携帯電話機	携帯電話機，一括払い	1台	
	従来型携帯電話機・スマートフォン別，通信事業者別，OS別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 販売台数の多い代表的な通信事業者を複数選定する。なお，特定の通信事業者との契約を前提とせずに購入される端末については，事業者区分「その他」として集計する。</p> <p>(2) 従来型携帯電話機の場合は通信事業者別，スマートフォンの場合は通信事業者別及びOS別に，売れ筋の機種を指定する。</p> <p>(3) 特定の通信事業者との契約を前提として購入される端末については，機種変更又は契約変更に伴う購入時の価格を採用する。</p> <p>(4) スマートフォンは，出荷台数の多い代表的なOSを選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 従来型携帯電話機の場合</p> <p>ア 調査機種数(<math>n</math>)で単純平均し，通信事業者(<math>b</math>)別の平均価格を算出する。</p> $P_{(Y,M),a,b} = \frac{\sum_d P_{(Y,M),a,b,d}}{n}$ <p>② スマートフォンの場合</p> <p>ア 調査機種数(<math>n</math>)で単純平均し，OS(<math>c</math>)別の平均価格を算出する。</p> $P_{(Y,M),a,b,c} = \frac{\sum_d P_{(Y,M),a,b,c,d}}{n}$ <p>イ OS別の出荷台数(<math>q</math>)を用いて加重平均し，通信事業者(<math>b</math>)別の平均価格を算出する。なお，出荷台数は原則として毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y,a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c} q_{y,b,c}}{\sum_c q_{y,b,c}}$ <p>③ 通信事業者別に，前年12月を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),a,b}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y,a,b}}{P_{(Y-1,12月),y,a,b}} \times 100$ <p>④ 通信事業者別の販売台数割合(<math>w</math>)を用いて加重平均し，従来型携帯電話機・スマートフォン(<math>a</math>)別の連環指数を算出する。なお，販売台数割合は原則として毎年12月に更新する。</p> $I_{(Y,M),a}^{(L)} = \frac{\sum_b I_{(Y,M),a,b}^{(L)} w_{Y-1,a,b}}{\sum_b w_{Y-1,a,b}}$ <p>⑤ 従来型携帯電話機・スマートフォン別の販売台数割合(<math>w</math>)を用いて加重平均し，前年12月を100とする連環指数を算出する。なお，販売台数割合は原則として毎年12月に更新する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{I_{(Y,M),F}^{(L)} w_{Y-1,F} + I_{(Y,M),S}^{(L)} w_{Y-1,S}}{w_{Y-1,F} + w_{Y-1,S}}$ <p>⑥ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			

$Y$  : 当年  
 $M$  : 当月  
 $y$  : ウェイト参照年  
 $a$  : 従来型携帯電話機( $F$ )  
       ・スマートフォン( $S$ )  
 $b$  : 通信事業者  
 $c$  : OS  
 $d$  : 調査機種

8010～8090 中学校授業料（私立），高等学校授業料（公立），高等学校授業料（私立）， 専修学校授業料（私立），幼稚園保育料（公立），幼稚園保育料（私立）		
品 目	銘 柄	単 位
8010 中学校授業料（私立）	私立中学校，授業料・入学金	学校別
8020 高等学校授業料（公立）	公立高等学校，全日制，普通科，授業料・入学金	所得区分別， 学校別
8030 高等学校授業料（私立）	私立高等学校，全日制，普通科，授業料・入学金	所得区分別， 学校別
8077 専修学校授業料（私立）	私立専門学校，昼間部，看護学科，修業年限3年， 授業料・入学金	学校別
8080 幼稚園保育料（公立）	公立幼稚園及び認定こども園（幼稚園型又は幼保 連携型），2年保育，1人が入園の世帯が支払う 保育料・入園料	所得区分別， 幼稚園別
8090 幼稚園保育料（私立）	私立幼稚園及び認定こども園（幼稚園型又は幼保 連携型），3年保育，1人が入園の世帯が支払う 保育料・入園料	所得区分別， 幼稚園別
1 か年 (入学金は1回)		
1 か年 (入園料は1回)		
<b>価格選定</b> (1) 銘柄ごとに授業料（保育料）と入学金（入園料）を選定する。 (2) 入学金（入園料）は，各学年（保育年）の生徒（園児）が入学（入園）した当時の金額を用いる。 (3) 調査市町村別（「8077 専修学校授業料（私立）」においては都道府県別）に学校（幼稚園）を所定数選定する。 (4) 「8020 高等学校授業料（公立）」及び「8030 高等学校授業料（私立）」においては，就学支援金を控除した価格とし，所得区分を複数選定する。 (5) 「8080 幼稚園保育料（公立）」及び「8090 幼稚園保育料（私立）」においては，就園奨励費等の補助金（子ども1人の世帯に支払われる保育料に対する補助金）を控除した価格とし，所得区分を複数選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 学校（又は幼稚園）(a)別に学年数（又は保育年数）(n)で単純平均し，平均授業料（又は保育料）及び平均入学金（又は入園料）を算出する。なお，「8020 高等学校授業料（公立）」，「8030 高等学校授業料（私立）」，「8080 幼稚園保育料（公立）」及び「8090 幼稚園保育料（私立）」においては，所得区分(c)別の世帯割合(q)を用いて加重平均する。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;授業料（又は保育料）&gt;</p> <math display="block">p_{t,a}^{\text{授}} = \frac{\sum_{b,c} p_{t,a,b,c}^{\text{授}} q_{0,c}}{n \sum_c q_{0,c}}</math> </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;入学金（又は入園料）&gt;</p> <math display="block">p_{t,a}^{\text{入}} = \frac{\sum_b p_{t,a,b}^{\text{入}}}{n}</math> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; font-size: small;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時 a : 学校又は幼稚園 b : 学年 c : 所得区分</p> </div> </div> ② 授業料（又は保育料）と入学金（又は入園料）を合算し，学校（又は幼稚園）別の平均価格を算出する。  $p_{t,a} = p_{t,a}^{\text{授}} + p_{t,a}^{\text{入}}$ ③ 学校別の在籍人員(q)を用いて，調査市町村別（「8077 専修学校授業料（私立）」においては都道府県別）の品目別価格指数を算出する。  $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$		
<b>価格指数の適用</b> 専修学校授業料（私立）は，都道府県内一律に適用する。 専修学校授業料（私立）以外は，調査市町村別に適用する。		

8040～8070 大学授業料（国立）、大学授業料（私立）、短期大学授業料（私立）		
品目	銘柄	単位
8040 大学授業料（国立）	国立大学，昼間部，法文経系／理工系，授業料・入学金	学校別
8060 大学授業料（私立）	私立大学，昼間部，法文経系／理工系，授業料・入学金	学校別
8070 短期大学授業料（私立）	私立短期大学，昼間部，法文経系／家政系，授業料・入学金	学校別
1 か年 (入学金は1回)		
<b>価格選定</b> (1) 銘柄ごとに授業料と入学金を選定する。 (2) 入学金は、各学年の学生が入学した当時の金額を用いる。 (3) 都道府県別に大学を所定数選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 学年数( $n$ )で単純平均し、課程( $a$ )別、大学( $b$ )別の授業料及び入学金を算出する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;授業料&gt;</p> <math display="block">p_{t,a,b}^{\text{授}} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c}^{\text{授}}}{n}</math> </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;入学金&gt;</p> <math display="block">p_{t,a,b}^{\text{入}} = \frac{\sum_c \frac{p_{t,a,b,c}^{\text{入}}}{n}}{n}</math> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; font-size: small;"> <p><math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 課程  <math>b</math> : 大学  <math>c</math> : 学年</p> </div> </div> ② 授業料と入学金を合算し、課程別、大学別の平均価格を算出する。 $p_{t,a,b} = p_{t,a,b}^{\text{授}} + p_{t,a,b}^{\text{入}}$ ③ 課程別、大学別の在籍人員( $q$ )を用いて、都道府県別の品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_{a,b} p_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_{a,b} p_{0,a,b} q_{0,a,b}} \times 100$		
<b>価格指数の適用</b> 都道府県内一律		

9205 新聞代（全国紙）		
品目	銘柄	単位
新聞代 (全国紙)	日刊，邦字一般新聞，月ぎめ，全国紙 新聞別，販売形態別	1 か月
<b>価格選定</b> (1) 販売部数の多い代表的な新聞を複数選定する。 (2) 販売形態（朝夕刊，統合版（夕刊なし））別に選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 新聞( $a$ )別，販売形態( $b$ )別の販売部数( $q$ )を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_{a,b} p_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_{a,b} p_{0,a,b} q_{0,a,b}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; font-size: small; margin-left: 400px;"> <p><math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 新聞  <math>b</math> : 販売形態</p> </div>		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

9226		月刊誌	
品目	銘柄	単位	
月刊誌	調査日現在の最新号	1冊	
	分野別		
価格選定 (1) 女性誌, 少年誌, 趣味教養誌, 生活情報誌, 大衆誌の各分野から代表的な月刊誌を選定する。			
指数算出方法 ① 分野(a)別の発行部数(q)を用いて, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;">             t : 比較時, 0 : 基準時              a : 分野           </div>			
価格指数の適用 全国一律			

9230		週刊誌	
品目	銘柄	単位	
週刊誌	調査日現在の最新号	1冊	
	分野別		
価格選定 (1) 総合誌, 大衆誌, 少年誌の各分野から代表的な週刊誌を選定する。			
指数算出方法 ① 分野(a)別の発行部数(q)を用いて, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;">             t : 比較時, 0 : 基準時              a : 分野           </div>			
価格指数の適用 全国一律			

9300 宿泊料		単位
品目	銘柄	
宿泊料	和式の構造及び設備を主とする施設, 和室, 1泊2食付き(税・サービス料込み), 平日・休前日	1人
	洋式の構造及び設備を主とする施設, 洋室, ツイン, 1泊朝食付き(税・サービス料込み), 平日・休前日	
<b>価格選定</b> (1) 平日及び休前日それぞれの料金を選定する。		
<b>指数算出方法</b> ① 調査市町村(c)別の宿泊施設数(n)で単純平均し, 調査市町村別の平均価格を算出する。 $p_{t,a,b,c} = \frac{\sum_d p_{t,a,b,c,d}}{n_c}$ ② 調査市町村別, 料金タイプ(a)別の宿泊者数(q)を用いて加重平均し, 調査日(b)別の平均価格を算出する。 $p_{t,a,b} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c} q_{0,a,c}}{\sum_c q_{0,a,c}}$ ③ 平日・休前日の日数の比7:3を用いて加重平均し, 料金タイプ別の平均価格を算出する。 $p_{t,a} = \frac{p_{t,a,b}^{\text{平}} \times 7 + p_{t,a,b}^{\text{休}} \times 3}{10}$ ④ 料金タイプ別宿泊者数の比1:1を用いて加重平均し, 全国統一の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{p_{t,a}^{2\text{食}} + p_{t,a}^{\text{朝食}}}{2}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>t : 比較時, 0 : 基準時  a : 料金タイプ (1泊2食, 1泊朝食)  b : 調査日 (平日, 休前日)  c : 調査市町村  d : 宿泊施設</p> </div> ⑤ 基準時価格で除して, 品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
<b>価格指数の適用</b> 全国一律		

9305 外国パック旅行費		単位
品目	銘柄	
外国パック 旅行費	フリープラン，2名1室利用，大人1名，燃油サーチャージや空港施設使用料などの諸費用を含む	1回
	旅行先別，旅行会社別，日別	
<p>価格選定</p> <p>(1) 旅行者数の多いアジア，北アメリカ，ヨーロッパ，オセアニアの各地域から，代表的な旅行先を選定する。</p> <p>(2) 取扱高の大きい代表的な旅行会社を複数選定する。</p> <p>(3) 旅行先別に，出発地，旅行日数を選定し，旅行会社別にプランを選定する。プランは航空機などの交通と宿泊のみで，観光などが付いていないフリープランを選定する。</p> <p>(4) 1か月分の日別価格を選定する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 当月日数(<math>n</math>)で単純平均し，旅行会社(<math>b</math>)別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a,b} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c}}{n}$ <p>② 旅行会社別の取扱割合(<math>q</math>)を用いて加重平均し，旅行先(<math>a</math>)別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a} = \frac{\sum_b p_{t,a,b} q_{0,b}}{\sum_b q_{0,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 200px;"> <p><math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 旅行先  <math>b</math> : 旅行会社  <math>c</math> : 日</p> </div> <p>③ 基準時価格で除して，旅行先別の指数を算出する。</p> $I_{t,a} = \frac{p_{t,a}}{p_{0,a}} \times 100$ <p>④ 旅行先別の旅行者数割合(<math>w</math>)を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>		

9330 放送受信料（NHK）		
品目	銘柄	単位
放送受信料 （NHK）	NHK放送受信料，口座振替・クレジットカード払	2か月
	受信契約種別	
<p>価格選定</p> <p>(1) 受信契約種類（地上契約及び衛星契約）別に受信料を選定する。</p> <p>(2) 地域（沖縄県以外，沖縄県）別に受信料を選定する。</p> <p>(3) 契約数が最も多い支払区分（2か月払）を選定する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 受信契約種類(a)別の契約数(q)を用いて加重平均し，平均価格を算出する。 なお，契約数は原則として毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_a P_{(Y,M),a} q_{y,a}}{\sum_a q_{y,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>Y : 当年 M : 当月 y : ウェイト参照年 a : 受信契約種類</p> </div> <p>② 前年12月を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12月),y}} \times 100$ <p>③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>沖縄県以外については，沖縄県以外の品目別価格指数を一律に適用する。</p> <p>沖縄県については，沖縄県の品目別価格指数を適用する。</p>		

9367 放送受信料（NHK・ケーブル以外）		
品目	銘柄	単位
放送受信料 （NHK・ケーブル以外）	CS放送受信料（スカイパーフェクTV），基本料金	1か月
	CS放送受信料（スカイパーフェクTV），パック料金	
<p>指数算出方法</p> <p>① 基本料金とパック料金を合算し，1か月当たりの料金を算出する。</p> $P_t = P_t^{\text{基}} + P_t^{\text{パ}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>t : 比較時，0 : 基準時</p> </div> <p>② 基準時価格で除して，品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>		

9341 映画観覧料		
品目	銘柄	単位
映画観覧料	映画観覧料	1回
	映画運営事業者別，料金区分別	
価格選定 (1) 代表的な映画運営事業者を複数選定する。 (2) 利用の多い代表的な料金区分を複数選定する。		
指数算出方法 ① 料金区分( $b$ )別の利用割合( $q$ )を用いて加重平均し，映画館運営事業者( $a$ )別の平均価格を算出する。 $P_{t,a} = \frac{\sum_b P_{t,a,b} q_{0,b}}{\sum_b q_{0,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 映画館運営事業者  <math>b</math> : 料金区分           </div> ② 映画館運営事業者別のスクリーン数( $q$ )を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}} \times 100$		
価格指数の適用 全国一律		

9342 演劇観覧料		
品目	銘柄	単位
演劇観覧料	ミュージカル演劇，S席，一般	1回
	運営事業者別	
価格選定 (1) 代表的な運営事業者を複数選定する。 (2) 事業者ごとに代表的な劇場及び料金区分を選定する。		
指数算出方法 ① 運営事業者( $a$ )別の入場者数( $q$ )を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a P_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a P_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時，0 : 基準時  <math>a</math> : 運営事業者           </div>		
価格指数の適用 全国一律		

9374 文化施設入場料		単 位
品 目	銘 柄	
文化施設入場料	美術館入館料（独立行政法人），一般，常設展（平常展）	1 人
	美術館入館料（公立），一般，常設展（平常展）	
	美術館別	
価格選定 (1) 独立行政法人は代表的な美術館を1つ，公立は都道府県内で代表的な美術館を複数選定する。		
指数算出方法 ① 調査美術館数( $n$ )で単純平均し，都道府県別の平均価格を算出する。 $P_t = \frac{p_t^{\text{独}} + \sum_a p_{t,a}^{\text{公}}}{n}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <math>t</math> : 比較時, <math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : 美術館 (公立)           </div> ② 基準時価格で除して，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{P_t}{P_0} \times 100$		
価格指数の適用 都道府県内一律		

9372 テーマパーク入場料		単 位
品 目	銘 柄	
テーマパーク 入場料	フリーパス料金，休日，1日，大人	1 人
	テーマパーク別	
価格選定 (1) 入場者数の多い代表的なテーマパークを複数選定する。		
指数算出方法 ① テーマパーク( $a$ )別の入場者数( $q$ )を用いて，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <math>t</math> : 比較時, <math>0</math> : 基準時  <math>a</math> : テーマパーク           </div>		
価格指数の適用 全国一律		

9397 インターネット接続料		単位
品目	銘柄	
インターネット 接続料	ブロードバンド回線利用料，プロバイダ料，モデムレンタル料	1か月
	回線事業者別，回線種類別	
<p>価格選定</p> <p>(1) ブロードバンド回線のシェアが高い代表的な回線事業者を複数選定する。</p> <p>(2) 選定した回線事業者について，契約数の多い回線種類（FTTH，DSL，戸建て，集合住宅）を1つ又は複数選定し，それぞれについて代表的なプロバイダ企業，通信速度を選定する。</p> <p>(3) 回線使用料，プロバイダ料及びモデムレンタル料を合わせた料金を調査する。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 回線事業者別，回線種類別の契約件数(<math>q</math>)を用いて加重平均し，平均価格を算出する。 なお，契約件数は原則として毎年12月に更新する。</p> $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_{a,b} P_{(Y,M),a,b} q_{y,a,b}}{\sum_{a,b} q_{y,a,b}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p><math>Y</math> : 当年  <math>M</math> : 当月  <math>y</math> : ウェイト参照年  <math>a</math> : 回線事業者  <math>b</math> : 回線種類</p> </div> <p>② 前年12月を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y-1,12月),y}} \times 100$ <p>③ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて，都道府県別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>都道府県内一律</p>		

品目	銘柄	単位
ウェブコンテンツ利用料	音楽配信、動画配信、携帯用ソフト配信（アプリ）、電子書籍	—
	ウェブサイト別、サービス別	

## 価格選定

- (1) 代表的なコンテンツ（音楽配信、動画配信、携帯用ソフト配信（アプリ）、電子書籍）を選定する。
- (2) コンテンツごとに代表的なウェブサイトを複数選定し、それぞれについて毎月ランキング上位あるいは代表的なサービスを1つ又は複数選定する。

## 指数算出方法

- ① 毎月ランキング上位のサービスを選定するウェブサイトの場合

ア ランキング上位(c)の価格を単純平均し、ウェブサイト(b)別の平均価格を算出する。

$$P_{(Y,M),a,b} = \frac{\sum_c P_{(Y,M),a,b,c}}{n}$$

イ ウェブサイト別に前年12月を100とする連環指数を算出する。

$$I_{(Y,M),a,b}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),a,b}}{P_{(Y-1,12月),a,b}} \times 100$$

Y : 当年  
M : 当月  
a : コンテンツ  
b : ウェブサイト  
c : サービス

- ② 代表的なサービスを1つ又は複数選定するウェブサイトの場合

ア サービス(c)別に前年12月を100とする連環指数を算出する。

$$I_{(Y,M),a,b,c}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),a,b,c}}{P_{(Y-1,12月),a,b,c}} \times 100$$

イ サービス別の連環指数を単純平均し、ウェブサイト(b)別の連環指数を算出する。

$$I_{(Y,M),a,b}^{(L)} = \frac{\sum_c I_{(Y,M),a,b,c}^{(L)}}{n}$$

- ③ ウェブサイト別の連環指数を幾何平均し、コンテンツ(a)別の連環指数を算出する。

$$I_{(Y,M),a}^{(L)} = \prod_b \left( I_{(Y,M),a,b}^{(L)} \right)^{\frac{1}{n}}$$

- ④ コンテンツ別の売上金額割合(w)を用いて加重平均し、当該品目の連環指数を算出する。  
なお、売上金額割合は原則として毎年12月に更新する。

$$I_{Y,M}^{(L)} = \frac{\sum_a I_{(Y,M),a}^{(L)} W_{Y-1,a}}{\sum_a W_{Y-1,a}}$$

- ⑤ 前年12月の指数に当年当月の連環指数を乗じて、品目別価格指数を算出する。

$$I_{Y,M} = I_{Y-1,12月} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$$

## 価格指数の適用

全国一律

9722		バッグB	
品 目	銘 柄	単 位	
バッグB	輸入品，フランス製又はイタリア製，手提げ型（ショルダー兼用型を含む）	1 個	
	企業別		
価格選定 (1) 代表的な企業を複数選定する。			
指数算出方法 ① 基準時価格で除して企業(a)別の指数を算出する。 $I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 企業           </div> ② 企業別の指数を幾何平均し，品目別価格指数を算出する。 $I_t = \prod_a (I_{t,a})^{\frac{1}{n}}$			
価格指数の適用 全国一律			

9799, 9798		たばこ（国産品），たばこ（輸入品）	
品 目	銘 柄	単 位	
9799 たばこ（国産品）	フィルター付きたばこ	1 箱	
9798 たばこ（輸入品）	フィルター付きたばこ		
価格選定 (1) 国産品については，販売実績上位 20 位までに含まれる国産紙巻きたばこを選定する。 (2) 輸入品については，輸入紙巻きたばこ販売実績上位 10 位銘柄を選定する。			
指数算出方法 ① 銘柄(a)別の販売個数(q)を用いて加重平均し，平均価格を算出する。なお，販売個数は価格改定時に入手できる最新のものをを用いる。 $P_{(Y,M),y} = \frac{\sum_a P_{(Y,M),a} q_{y,a}}{\sum_a q_{y,a}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>Y</math> : 当年  <math>M</math> : 当月  <math>y</math> : ウェイト参照年  <math>a</math> : 銘柄           </div> ② 前月（価格改定前）を 100 とする連環指数を算出する。 $I_{Y,M}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y}}{P_{(Y,M-1),y}} \times 100$ ③ 前月の指数に当月の連環指数を乗じて，品目別価格指数を算出する。 $I_{Y,M} = I_{Y,M-1} \times \frac{I_{Y,M}^{(L)}}{100}$			
価格指数の適用 全国一律			

9928		傷害保険料	
品目	銘柄	単位	
傷害保険料	傷害総合保険，基本契約，死亡・後遺障害保険金 500 万円，入院保険金（日額）3,000 円，通院保険金（日額）1,000 円，賠償責任保険金 1 億円，保険期間 1 年，月払	1 か月	
	保険会社別		
価格選定			
(1) 保険料収入の多い代表的な保険会社を複数選定する。			
指数算出方法			
① 基準時価格で除して，保険会社 (b) 別の指数を算出する。			
$I_{t,a} = \frac{P_{t,a}}{P_{0,a}} \times 100$		$t$ : 比較時, 0 : 基準時 $a$ : 保険会社	
② 保険会社別の保険料収入割合 (w) を用いて加重平均し，品目別価格指数を算出する。			
$I_t = \frac{\sum_a I_{t,a} w_{0,a}}{\sum_a w_{0,a}}$			
価格指数の適用			
全国一律			

9921		保育所保育料	
品目	銘柄	単位	
保育所保育料	公立保育所，1 人が入所の世帯が支払う保育料	1 か年	
	年齢区分別，所得区分別		
価格選定			
(1) 3 歳未満児及び 3 歳以上児それぞれの保育料を選定する。			
(2) 所得区分を複数選定する。			
指数算出方法			
① 年齢区分 (a) 別，所得区分 (b) 別の世帯割合 (q) を用いて加重平均し，年齢区分別の平均価格を算出する。			
$p_{t,a} = \frac{\sum_b p_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_b q_{0,a,b}}$		$t$ : 比較時, 0 : 基準時 $a$ : 年齢区分 (3 歳未満, 3 歳以上) $b$ : 所得区分	
② 年齢区分別の入所児童数 (q) を用いて，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。			
$I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$			
価格指数の適用			
調査市町村別			

9914		介護料
品目	銘柄	
介護料	介護サービス費，利用者負担分	
	サービス種類別，所得区分別，施設種類等別，所要時間区分別，要介護度別	
単位		
1回，1日		
<p>価格選定</p> <p>(1) 利用者の多い，通所介護，訪問介護，介護老人福祉施設のサービスを選定する。制度改正があった場合には再選定する。</p> <p>(2) 所得区分別の利用者負担分の価格を用いる。なお，高額介護サービス費を考慮する。</p> <p>(3) 各サービスから介護を受ける施設又は介護の種類を選定する。</p> <p>(4) 所要時間区分のあるサービスについては，利用の多い区分を選定する。</p> <p>(5) 要介護度別に負担額が設定されているサービスについてはそれらの価格をすべて用いる。</p>		
<p>指数算出方法</p> <p>① 所得区分(<i>b</i>)別，施設種類等(<i>c</i>)別，所要時間区分(<i>d</i>)別，要介護度(<i>e</i>)別の利用割合(<i>q</i>)を用いて加重平均し，サービス種類(<i>a</i>)別の平均価格を算出する。なお，利用割合は制度改正時に入手できる最新のものをを用いる。</p> $P_{(Y,M),y,a} = \frac{\sum_{b,c,d,e} P_{(Y,M),a,b,c,d,e} q_{y,a,b,c,d,e}}{\sum_{b,c,d,e} q_{y,a,b,c,d,e}}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p><i>Y</i> : 当年  <i>M</i> : 当月  <i>y</i> : ウェイト参照年  <i>a</i> : サービス種類  <i>b</i> : 所得区分  <i>c</i> : 施設種類等  <i>d</i> : 所要時間区分  <i>e</i> : 要介護度  <i>j</i> : 調査市町村</p> </div> <p>② 調査市町村(<i>j</i>)別の地域加算率(<i>R</i>)を乗じて，サービス種類別，調査市町村別の平均価格を算出する。</p> $P_{(Y,M),y,a,j} = P_{(Y,M),y,a} \times R_{a,j}$ <p>③ 前月（制度改正前）を100とする連環指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),a,j}^{(L)} = \frac{P_{(Y,M),y,a,j}}{P_{(Y,M-1),y,a,j}} \times 100$ <p>④ サービス種類別の費用額割合(<i>w</i>)を用いて加重平均し，連環指数を算出する。なお，費用額割合は制度改正時に入手できる最新のものをを用いる。</p> $I_{(Y,M),j}^{(L)} = \frac{\sum_a I_{(Y,M),a,j}^{(L)} w_{y,a,j}}{\sum_a w_{y,a,j}}$ <p>⑤ 前月（制度改正前）の指数に当年当月の連環指数を乗じて，調査市町村別の品目別価格指数を算出する。</p> $I_{(Y,M),j} = I_{(Y,M-1),j} \times \frac{I_{(Y,M),j}^{(L)}}{100}$		
<p>価格指数の適用</p> <p>調査市町村別</p>		

9920		振込手数料	
品目	銘柄	単位	
振込手数料	振込手数料	1件	
	利用形態別, 手数料区分別, 銀行別		
<p>価格選定</p> <p>(1) 代表的な利用形態 (ATM利用, インターネット利用, 自行宛, 他行宛など) を複数選定する。</p> <p>(2) 代表的な手数料区分を複数選定する。</p> <p>(3) それぞれの区分で代表的な銀行を複数選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 銀行数 (<math>n</math>) で単純平均し, 手数料区分 (<math>b</math>) 別の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a,b} = \frac{\sum_c p_{t,a,b,c}}{n}$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 利用形態  <math>b</math> : 手数料区分  <math>c</math> : 銀行 </div> <p>② 手数料区分別の利用頻度割合 (<math>q</math>) を用いて加重平均し, 利用形態別 (<math>a</math>) の平均価格を算出する。</p> $p_{t,a} = \frac{\sum_b p_{t,a,b} q_{0,a,b}}{\sum_b q_{0,a,b}}$ <p>③ 利用形態別の利用頻度割合 (<math>q</math>) を用いて, 品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			

9931		警備料	
品目	銘柄	単位	
警備料	ホームセキュリティ, 住宅物件, 一戸建, 機器レンタル	1個	
	警備会社別		
<p>価格選定</p> <p>(1) ホームセキュリティ契約件数の多い代表的な警備会社を複数選定する。</p> <p>(2) 警備会社ごとに, 代表的な警備プランを選定する。</p>			
<p>指数算出方法</p> <p>① 警備会社 (<math>a</math>) 別のホームセキュリティ契約件数 (<math>q</math>) を用いて, 品目別価格指数を算出する。</p> $I_t = \frac{\sum_a p_{t,a} q_{0,a}}{\sum_a p_{0,a} q_{0,a}} \times 100$ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <math>t</math> : 比較時, 0 : 基準時  <math>a</math> : 警備会社 </div>			
<p>価格指数の適用</p> <p>全国一律</p>			